

会翔医
松村医師が「もの忘れ外来」
SCD・MCI時点から認知症の早期発見へ

松村医師



松村医師は約20年間、札幌宮の沢脳神経外科病院、宮の沢明日佳病院でそれぞれ院長を歴任。道内初の日本認知症学会の

専門医・指導医資格を取得するなど長年にわたる、脳神経外科と認知症医療に取り組んできた。認知症の前段階には、SCD（主観的認知機能低下）とMCI（軽度認知障害）があるが、SCDは、本人がこれまでの認知能力と比べて「明らかに低下した」と感じている状態で、客観的な認知機能検査では異常が見られない様子を指す。

SCDを訴える人は、MCIや認知症発症のリスクが2倍以上に上昇するというエビデンスが示されている。認知症発症を防ぐには、「SCDやMCIの段階でももの忘れ外来を受診することが極めて重要」と強調する。

診療では、独自に作成した問診票を使用。44項目の設問に答えることで、▼アルツハイマー型で、▼レビー小体型▼前頭側頭型▼血管性▼てんかん▼うつなどの認知症の

種類やそのほかの疾患が推察される仕組みとなっている。加えて、脳血流SPECTを用いて認知症の鑑別診断をおこないMRIにて脳萎縮の解析をして総合的に判断し、認知症の診療を積極的に行っていく。

「認知症の約7割を占めるのがアルツハイマー型認知症。その原因となるアミロイドβの蓄積は40代から始まっていることもあり、詳細な問診と検査さらには画像診断を積極的に取り入れ、SCD、MCIの早期発見をしていきたい」と話し、本院の札幌白石記念病院と連携した診療体制を整えている。

「気になったときにすぐに受診してほしい」との思いから、同クリニックでは予約なしでの診療を受け付けている（本院は予約制）。診療日は月・木曜午後。本院は月曜午前、火曜午後。

専門医・指導医資格を取得するなど長年にわたる、脳神経外科と認知症医療に取り組んできた。認知症の前段階には、SCD（主観的認知機能低下）とMCI（軽度認知障害）があるが、SCDは、本人がこれまでの認知能力と比べて「明らかに低下した」と感じている状態で、客観的な認知機能検査では異常が見られない様子を指す。

SCDを訴える人は、MCIや認知症発症のリスクが2倍以上に上昇するというエビデンスが示されている。認知症発症を防ぐには、「SCDやMCIの段階でももの忘れ外来を受診することが極めて重要」と強調する。

診療では、独自に作成した問診票を使用。44項目の設問に答えることで、▼アルツハイマー型で、▼レビー小体型▼前頭側頭型▼血管性▼てんかん▼うつなどの認知症の

種類やそのほかの疾患が推察される仕組みとなっている。加えて、脳血流SPECTを用いて認知症の鑑別診断をおこないMRIにて脳萎縮の解析をして総合的に判断し、認知症の診療を積極的に行っていく。

「認知症の約7割を占めるのがアルツハイマー型認知症。その原因となるアミロイドβの蓄積は40代から始まっていることもあり、詳細な問診と検査さらには画像診断を積極的に取り入れ、SCD、MCIの早期発見をしていきたい」と話し、本院の札幌白石記念病院と連携した診療体制を整えている。

「気になったときにすぐに受診してほしい」との思いから、同クリニックでは予約なしでの診療を受け付けている（本院は予約制）。診療日は月・木曜午後。本院は月曜午前、火曜午後。